

少々のムラや色落ちはかまわないが  
簡単に染めたい場合におすすめ!

**短所**

- 染めムラがしやすい。
- 縫い目の中が染まりにくい。
- 濃色に染めるのに、非常に時間がかかる。
- 濃い藍染め液では、染めムラ・色落ちしやすい。
- 摩擦で色落ちしやすい。
- 目的の濃度や同じ濃度に染めるのは困難。
- 飽和染法用キットなのでハイドロが多い(酸化しにくい)

**■ 用意するもの**

- ポリバケツ・ボール ・ゴム手袋
- ハサミ・攪拌棒(菜箸等)・保護メガネ
- ラップ(サランラップ、クレラップ等のポリ塩化ビニレン製のもの)

(・ハイドロ)

(・酸化防止袋(大)) 藍染め液が10ℓ前後で1ヶ月以上保存したい場合に使用します。

**■ 藍染め液に必要な水とハイドロの量**

天然藍濃縮液	水+ハイドロ
100g	4ℓ+ハイドロ1袋(5g)
500g	20ℓ+ハイドロ(2~4袋)
1kg	40ℓ+ハイドロ20~40g

※特に糊防染の場合は、ハイドロを0.5g/ℓの割合に溶かしてください

## 天然藍濃縮液


天然インド藍を還元溶解した高濃度の藍液です。  
添付のハイドロを溶かした薄めるだけで好みの濃度の藍染め液が作れます。

- 簡単藍染め法であれば、天然藍濃縮液だけで染められます。
- 堅ろう藍染め法の場合は、別売の「堅ろう藍染め助剤セット」をお求め下さい。
- 必要に応じて、タナウェットAL、ユニソフナーSS、酸化防止袋(大)も準備します。
- 天然藍濃縮液の1kg品は別途ハイドロをお買い求めください。

天然藍濃縮液	100g	ハイドロ(5g×2)付	253-211-00
	500g	ハイドロ(5g×8)付	253-212-00

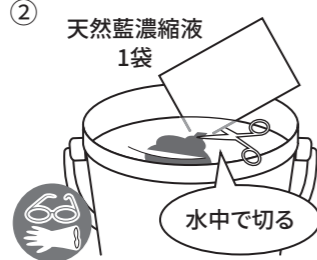
天然藍濃縮液	1kg	(ハイドロ別売)	136-405-50
--------	-----	----------	------------

**①** **藍染め液の作り方**




染めたい濃度に応じた水の量

② 天然藍濃縮液1袋




天然藍濃縮液を上下に軽く振り混ぜてから、水中で袋を切り、中の液をしごき出す。

③ 軽く攪拌



棒で軽く混ぜれば藍染め液の完成。空気酸化しないようにすぐに液面に接してラップする。液の表面は青くなるが、液の色は茶味の黄色。


【保存したい場合】



ポリバケツに酸化防止袋を入れ、藍染め液を作る。空気を追い出し、固くねじった袋の先を二つ折にし、輪ゴムでしっかり止める。このまま空気が入らなければ1ヶ月以上保存できる。


上記表の割合で必要量の水とハイドロを入れ、静かに混ぜて溶かす。  
藍染め液の温度は15~25℃位が適温。

**④** **藍染め方法**



水


⑤



藍染め液

水を軽くしぼり、布を広げ、端から手早く藍染め液に浸け込む。あまり固く水をしぼらず、空気の泡をできるだけ入れないよう棒などで引き込むように浸けることがコツ。


⑥



3~5分

藍染め液を棒で静かに攪拌し、常に布を動かすようにして3~5分染める。かき混ぜる方向を変えながら、布がダンゴ状に固まらないようにする。

⑦



ハンカチやスカーフの場合


Tシャツや絞り布の場合

引き上げてからは布を絞らない!

ハンカチ等は、藍染め液中で布の端を探してつまんで引き上げる。2~5秒ほど静止し、余分の藍染め液を落としたり、端をつまんだままで手早く水洗に移る。Tシャツ等藍染め液を多く含む布の場合は、藍染め液中で布をダンゴ状にまとめて軽く絞ってから引き上げ、手早く水洗に移る。

藍染めする布を水で濡らしておく。均一に濡れないまま染めるとムラになる。

⑧




1回目の水洗液

2回目の水洗水

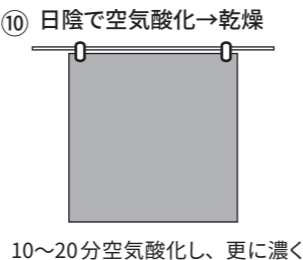
水に浸ける→引き上げるを繰り返しながら洗う。5回ほど布を上下させたら新しい水に替える。シャツなど衣類は、襟首の部分をつまんで上下させて洗う。

⑨



水を流しながらすすぎ洗する。布は黄→緑→紺に発色する。

⑩ 日陰で空気酸化→乾燥



10~20分空気酸化し、更に濃く染めたい場合は、⑤~⑩の工程を数回繰り返す。好みの色になれば、乾燥する。絞り布の場合は、糸を取ってから、乾燥する。乾燥後、アイロンをかけ仕上げ上げる。


**藍染め液の色**

【黄~黄緑】  
そのまま染められる。

【緑~青緑】  
1回位は染まるが、すぐ染まらなくなるのでハイドロを加え、ラップしてしばらく放置し、黄~黄緑色に戻してから染める。

【青】  
殆ど染まらない。  
ハイドロを加え、ラップして数時間~1夜間放置し、黄~黄緑色に戻してから染める。

京都の染料屋さんの  
**染色動画**



弊社YouTubeチャンネルで動画をご覧いただけます。  
上記QRコードよりアクセスしてください。

# 天然藍濃縮液

## 堅ろう藍染めの染め方

思い通りの色を、色ムラ・色落ちしない  
藍染めがしたい場合におすすめ!

別売の堅ろう藍染め助剤セットが必要ですが、簡単藍染めの欠点を全て解消し、極濃色も一度の染色で染めることができます。

### 【用意するもの】

・堅ろう藍染め助剤セット

セット内容 ( 藍発色剤・酢酸80%・藍ソープS  
PPメジャーカップ50ml )

- ・ボール・保護メガネ・ハサミ・ラップ
  - ・ポリバケツ・攪拌棒・ゴム手袋 (ユニソフナーSS)
  - ・アイロン、アイロン台 (・ハイドロ)
  - (・酸化防止袋(大))
- 藍染め液が10ℓ前後で1ヶ月以上保存したい場合に使用します (・タナウェットAL)
- 染める布に水が浸透しにくい場合に使用します。

表1 染めたい濃度に必要な水とハイドロ量

天然藍濃縮液	標準濃度	極濃紺	少し薄め青
100gの場合	水の量 2ℓ + ハイドロの量 1袋(5g)	1~1.5ℓ + 1袋(5g)	3~4ℓ + 1袋(5g)
500gの場合	水の量 10ℓ + ハイドロの量 4袋(20g)	5~7ℓ + 4袋(20g)	15~20ℓ + 4袋(20g)
1kgの場合	水の量 20ℓ + ハイドロの量 40g	10~15ℓ + 40g	30~40ℓ + 40g

### 藍染め液の作り方

① **ハイドロ**  
染めたい濃度に応じた水の量

② **天然藍濃縮液 1袋**  
水中で切る

③ **ラップは液面に密着させる**  
軽く攪拌

【保存したい場合】  
ポリバケツに酸化防止袋を入れ、藍染め液を作る。空気を追い出し、固くねじった袋の先を二つ折にし、輪ゴムでしっかり止める。そのまま空気が入らなければ1ヶ月以上保存できる。

### 藍染め

④ **水**  
藍染めする布を水で濡らしておく。水が浸透しにくいときは、タナウェットALを加えた水に浸けて、しっかり布の内部まで水を浸透させる。均一に濡れないまま染めるとムラになる。

⑤ **藍染め液**  
水から引き上げ、絞らず軽く水を切ったら空気の泡が入らないよう、棒で引き込むように浸ける。

⑥ **20~30分**  
布が浮き上がらないよう静かに攪拌し、布を動かしながら20~30分染める。布がダンゴ状に固まらないよう注意。

染色時の注意

- ・布は液中に沈める。浮き上がり空気に触れるとムラになる。
- ・藍染め液はできるだけ空気に触れないようにする。「酸化防止袋の口を半分閉じる」「液面をラップで覆う」「液面の2/3~3/4程を発泡スチロールの浮きフタで覆う」等。
- ・常に液を攪拌しながら染める。布を静置したままではムラになるだけでなく濃く染まらない。

### 発色の準備

⑦ **酢酸80% 水1ℓ当り10ml**  
**藍発色剤 水1ℓ当り10g**  
水~温湯(20~50℃)  
布の重さの20~50倍量

⑧ **布の重さの100~200倍が入るサイズ**  
水~温湯(20~50℃)

⑨ **藍染め液**  
流水 発色液

染色の途中で発色液を作っておく。何枚もまとめて染める場合、発色液をまとめて作っても良いが、発色時は1枚毎に分けて使用する。

水洗用の水を準備する。厚手の布やTシャツ等は、水温を高めにしておくとよい。

藍染め液から布を引き上げたら順に浸けられるよう並べて置く。

### 水洗・発色

⑩-A **ハンカチやスカーフの場合**  
⑩-B **Tシャツや絞りの場合**  
引き上げてからは布を絞らない!

⑪ **流水**  
水中で動かす

⑫ **発色液**  
2~5分

ハンカチやスカーフなどは、藍染め液中で布の端を探してつまんで引き上げる。2~5秒ほど静止し、余分の藍染め液を落としたり、端をつまんだままで手速く水洗に移る。

Tシャツや絞りの場合、藍染め液を多く含む布の場合は、藍染め液中で布をダンゴ状にまとめて軽く絞ってから引き上げ、手速く水洗に移る。

藍染め液から引き上げたらすぐ水に浸け、水中でゆったりと大きく動かしながら10~20秒程漬ける。その後引き上げ、2~3秒水を切ってから発色液に入れる。

発色液で手速く3~4回浸ける→引き上げるを繰り返した後、時々布を動かしながら発色させる。絞りの布で更に染め重ねない場合は、絞りを取り、布を拡げて発色させる。その後、よく水洗する。

### ソーピング(中々濃色染めの場合)

⑬ **藍ソープS 水1ℓ当り5ml**  
水 布の重さの10倍量

⑭ **ソーピング液**  
均一に揉む

⑮ **水**  
水を換えながら色が出なくなるまで洗う。⑯又は⑰へ進む

布の表面に付着した色素を洗い落とし摩擦による色落ちを防ぐため、ソーピングする。

布を入れ、強く押し洗いする。布を拡げシワの形を変え、均一に揉むようにする。布が多い場合は、洗濯機で洗うと良い。絹は優しく洗う。

水を換えながら色が出なくなるまで洗う。⑯又は⑰へ進む

- ・ソーピング液に浸けるだけでは洗えない。
- ・強く押し洗い、揉み洗いと布の表面に付着した色素だけ落ちる。
- ・堅ろう藍染め法では、色流れても染めた布は薄くならないが、従来法「簡単藍染め」の布は布表面に染まった色素が多いため布の色が半分くらいに淡くなる。
- ・絹は強く洗うと傷んでしまう。(スレを生じる)

### 柔軟仕上げ(必要に応じて)

⑯ **ユニソフナーSS 水100ml当り4~6ml**  
水 布の重さの5倍量

⑰ **柔軟仕上げ液**

⑱ **自然乾燥**  
アイロン乾燥不可

⑲ **軽くスチームアイロン**

柔軟仕上げ液を作る。1度処理すると、柔軟効果はいつまでも続く。

固く脱水した布を入れ、浸ける→絞るを2~3回繰り返した後、軽く絞る。

乾いたタオルで、余分な液を吸い取り、自然乾燥する。洗濯機で脱水しても良い。絹の淡色染めは固く脱水し、早く乾かした方が鮮明な青になる。

乾燥後、スチームアイロンをかけて仕上げる。

### 備考

- ・色が淡くても良いが、できるだけ多く染めたい場合は、ハイドロと藍染め液安定剤3BKを追加すれば、極淡色になるまで染めることができます。
- ・1~2週間後にまた染めたい場合は、液の表面をラップ等で密着させ保存します。もし液が緑~青緑色の場合は、ハイドロを1袋追加します。付属のハイドロを使い切った場合は、別売のハイドロとハイドロの9倍量の藍染め液安定剤3BKを加え保存します。
- ・ラップはサランラップ、クレラップ等のポリ塩化ビニリデン製のものを使用します。
- ・藍染め液を継続していつまでも使いたい場合は、インド藍液を使った藍染めをお勧めします。

### 酸化防止袋で染める

- ・絞り染布のように小さくまとめた布の藍染めに適した方法です。とくに揉み込みが必要な、おりがみ絞りや板締め絞りの場合は、染色中に藍染め液が酸化する心配がなくおすすめです。また、少量の藍染め液で染色でき、手や周りを汚さず染色できます。

#### ハンカチ・ストール等の場合

- 酸化防止袋(小)+エニーロック15cm巾
- 酸化防止袋(厚手・中)+エニーロック32cm巾

#### Tシャツ・エプロン・のれん等の場合

- 酸化防止袋(厚手・大)+エニーロック32cm巾